



令和元年六月

# 城北中だより

## 城北中学校教育目標

- 思いやりのある生徒
- 真剣に学ぶ生徒
- 健康な生徒

## 生徒数

1年	173名
2年	156名
3年	176名
特別支援学級	6名
全校生徒数	511名

## 磨く(みがく)

校長 玉崎 芳行

沖縄が梅雨入りした。幼少のころ、“うめの雨”と聞き、外に出て天に向かってあぐり口を開け、落ちてくる雨粒が酸っぱいのかを確かめた。親には、一笑に付された。

元来、日本人は、繊細な感性を持っているのではないだろうか。例えば、菜種梅雨、五月雨、御山洗、小夜時雨など四季折々の雨を表す。他にも、小糠雨、篠突く雨などは、その降る様態を表す。また、空の色を東雲色、紺碧色、茜色などと表す。その表現の豊かさは、どこからくるのか。先人が自然との共存を図り、農耕文化を醸成する中で培われてきたものであろうか。自分を取り巻くまわりとのかかわりを大切にしてきた面がうかがえる。

自らの目で見、耳で聴き、肌で触れ、心で感じる。瑞々しい感性は、五感を研ぎ澄ます。

中庭では、一年生が野草の観察をし、スケッチに夢中だ。校庭では、二年生が光る玉のような汗を輝かせボールを追っている。音楽室からは、澄んだ美しい歌声が響いてくる。三年生であろう。

チーム城北の同志は、今日もそれぞれがそれぞれの彩を重ね、自分づくりに一生懸命だ。

面をあげよう。心のアンテナを伸ばそう。感性を磨こう。同じ景色が違って見える瞬間が来るかもしれない。隣の友達の優しさや温かさ、辛さや苦しさが見えてくるかもしれない。自らの感性を磨こう。

水無月中旬、古の都で、三年生は我が国の歴史と文化に触れ、悠久の時の流れの中での先達の息吹に触れる。そして、明日から、学校総合体育大会が始まる。今まで流した汗と涙で磨いたそれぞれの想いと絆から、チーム城北の同志は何を感じ得るのであろう。

あなたの新たな輝きを期待する思いは、高まるばかりだ。